

(家庭数配布)



田起こしをしました！！

5年生の子どもたちがお楽しみ？の米作りがいよいよ始まります。まずは田起こしからです。「田起こし」は、土の中に空気（酸素）を入れ、稲の生育を促すために行います。前日には、とよっぴー（堆肥）を田んぼに入れてありましたので、それをよく混ぜるという意味もあります。

田起こしの目的を説明し、「さあ、やってみよう。」と声をかけると、子どもたちは張り切って田んぼにスコップを入れます。しばらくすると、「あっ、何か動いてる。」と声が出ました。ヤゴです。いつの間にか、トンボが卵を産んでいたのです。そんなこともありながら、ワイワイガヤガヤ、作業を進めました。田起こしの次はいよいよ田植えとなります。

毎日、何気なく食べているお米、これがどうやってできるのか、また農家の方がいかに苦勞をして米作りをされているのか、少しでも実感してくれればと思っています。



楽しく作業を進めました

ヤゴを発見！

◇朝の校門での会話から

私は毎朝校門に立ち、登校してくる子どもたちに「おはようございます。」とあいさつをしています。そこで、時々、子どもたちと話をすることがあります。先日もこんな会話がありました。

子：校長先生は朝早くからあいさつしてるけど、大変じゃない？

私：別にそんなに大変ではないよ。

子：だって、せっかくあいさつしても無視してる子もいるでしょ。

（あ〜、そんなふうになってくれているんだ。）と少しほっこりした気持ちになりました。

また、別の日、こんな会話もありました。

子：今日、ぼくの誕生日！

私は「おめでとう。」と言おうかとも思いましたが、少し意地悪をしてこう返しました。

私：あ、そうなの。じゃ、何て言えばいいの？

子：おめでとうって言いなさいよ。

私：（心の中で「偉そうに言うなあ。」）

その後、たまたまその子の教室に行くと、何とクラスの子全員に紙を配り、自分に対して誕生日のメッセージを書けと要求しているのです。また、クラスの子も優しいので、ほとんどの子がメッセージを書いていました。

この子、将来、天下を獲るのではないのでしょうか。

◇校長のつばやきコーナー「“普通”に感謝を」

今の日本はとても豊かです。ほとんどの子どもたち（大人も含めて）は、「普通にご飯を食べ、季節に合わせた服を着ることができ、何か困ったことがあれば相談する」ことができます。

ところが、国や地域によっては、「明日はご飯を食べれるだろうか？」「いつどこから爆弾が飛んでくるか分からない」「もしかして道に地雷が埋まっているかもしれない」など、日本での「普通」などとんでもなく贅沢な話で、「まず生きること」が求められているところもあります。ストリートチルドレンも未だに数多くいます。

ストリートチルドレンがどのように生活しているのか？地域によって事情は様々ですが、中にはゴミの中からお金に替えれそうなものを探し出し、それを売り、何とか命をつないでいる子もいます。今の日本の子どもたちからしてみれば、想像もできないでしょう。（私も旅行でケニアを訪れた際、多くの子どもたちに囲まれ、食べ物をねだられたことがあります。）

私は、緑地小の子どもたちにストリートチルドレンと同じことをやれと言うつもりはありませんし、する必要もありません。ただ、「普通にご飯を食べ、季節に合わせた服を着ることができ、何か困ったことがあれば相談できる」ことに感謝の気持ちを忘れず、今の自分がやれることに一生懸命に取り組んでほしい、そう思うだけです。